

LETTER

GraSPP
THE UNIVERSITY OF TOKYO

Contents

- 1ページ GraSPP Alumni & Student Day 2019開催報告
- 2ページ 寄付研究プロジェクト「経済成長とリスクマネジメント」シンポジウム開催報告
- 3ページ 学生インタビュー
- 4ページ 第2回TCS×BESETO CAMPUS Asia Alumni Workshop開催報告&TOPICS

GraSPP Alumni & Student Day 2019開催報告



2019年10月19日(土)16:30から20:30まで国際学術総合研究棟において、公共政策大学院ホームカミングイベント“GraSPP Alumni & Student Day 2019”を開催しました。約90名の同窓生、在校生が参加しました。まず初めに【第一部パネルセッション】では修了生のラジゴバル・サンディーブ氏(10期・国際プログラムコース・現国際連合大学勤務)の総合司会によりキャリアセッションが行われました。高原明生院長の挨拶に続き、3名の修了生(吉田泰己氏・3期・経済政策コース・現経済産業省勤務、馮月氏・12期・国際プログラムコース・現シティグループ証券株式会社勤務、アーサー・エル・メディオニ氏・12期・国際プログラムコース・同窓会副会長・現PwC Advisory LLC勤務)によるパネルディスカッションが行われました。

【第二部スピードデーティング】ではOBOGらが官公庁、金融、シンクタンク、コンサル、IT、商社、製造業、メディア、学界、国際機関、政治などのグループに分かれて座り、そこに在校生が訪問し、各5~10分程度でテーブル移動をするというグループトークの機会を設けました。在校生の関心の高い分野で活躍する先輩方の話を直接聞くことが出来る良い機会となったようです。この後、【アラムナイポータル説明会】にて日野薫郎氏(8期・経済政策コース・同窓会会長・現独立行政法人国際協力機構勤務)とアーサー・エル・メディオニ氏が、同窓生・在校生・教員が国境を越えて自由に交流できる場として2年前にたちあげたアラムナイポータルの説明を行い、参加者に登録を呼びかけました。サイトへの登録はこちらからお願い致します。

* GraSPP Alumni Association Portal *

<https://www.grasppalumni.com/>

最後に、毎年恒例の同窓生・在校生のネットワーキングのための交流会を開催しました。この会には、同窓生・在校生・教員が多数参加し、森田朗先生(初代院長)にもおいでいただきとても賑やかな会となりました。

2020年度の開催は、10月17日(土)を予定していますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております!



非連続なイノベーションとコーポレートガバナンス改革の新展開

学術支援専門職員 殿木 久美子



令和元年11月1日に福武ラーニングシアターにおいて、シンポジウム「非連続なイノベーションとコーポレートガバナンス改革の新展開」が行われました。本シンポジウムは、寄付研究プロジェクト「経済成長とリスクマネジメント」のコーポレートガバナンス研究会の研究成果の一環として行われたものです。企業経営者・幹部、投資家、監査法人、企業法務研究者をはじめ200名を超える皆様のご参加をいただきました。

まず、武蔵野大学国際総合研究所長/東京大学公共政策大学院客員教授の林良造先生による開会挨拶の後、(株)経営共創基盤(IGPI)代表取締役CEOの富山和彦氏より、「Society5.0の時代に相応しい新たな会社のカタチ」というテーマで基調講演をいただきました。講演の中では、「グローバル化とデジタル革命の進展という「破壊的イノベーションの波の拡大」に日本だけでなく世界の大企業が必ずしも有効に対応できなかった平成の30年間を振り返りながら、これまでの改良型イノベーションの時代においては、企業的意思決定は従来のボトムアップ方式で足りたが、事業からの撤退や機能の入替え等の重要事項の迅速な決断を迫られる破壊的変化の中では、トッ

プダウン方式で行わないと、適時適切な対応ができずに全滅してしまうとの警鐘を鳴らしました。そのためにも、会社における意思決定の在り方、意思決定する人の選任方法が重要であると明言されました。また、残る会社と残らない会社の差は、リーダーシップの在り方にあり、故に「いかにして“できるリーダー”を選ぶべきか」が鍵であり、このような考え方に沿って、従来の日本企業のプラクティスを変えていけば「会社のカタチ」も変わるはずであることが強調されました。

後半は、「コーポレートガバナンス改革 ー今後の課題と方向ー」というテーマで、藤田純孝日本CFO協会理事長によるモデレーターと様々な分野のパネリストを迎え、パネルディスカッションが行われました。まず、平成26年以降のコーポレートガバナンス改革の全体の評価と課題を俯瞰した議論が行われ、その後、1)企業経営側の改革状況と課題、2)強い経営者の育成と取締役会/指名委員会の役割、3)機関投資家によるエンゲージメントの課題と新しいアクティビズムの潮流、4)グループガバナンスの強化についての4つのテーマに分けて、活発な議論が行われました。取締役会が、強く優れた経営執行陣を、トップを含め継続的に育成・評価・選任することが大切であること、コンプライアンス又はリスク対応等、監督けん制機能を効かせること、経営人材の流動性を進めること等の共通認識が得られ、本シンポジウムが締めくくられました。本シンポジウムは、企業経営関係者及び企業法務関係者が、今後のコーポレートガバナンス改革の更なる深化に取り組む上で、多くの示唆に富むものになったと考えております。

詳細は、本研究プロジェクトホームページをご覧ください。

http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/EGRM/events/index_check.html#report





2020年1月に開催されたGraSPPのヨーロッパでのSDGフィールドワークに参加

学生 インタビュー

第33回

Vanessa CANDIDOさん (MPP/IP 2年)

—GraSPPに入学した経緯を教えてください

私はフィリピンの大学を卒業後、エネルギー関連の民間企業で1年、経済系の官庁で2年働いた後、2018年8月に日本に来ました。大学時代、日本に留学経験のあった教授から「日本は良いところだ」という話を聞いて日本に興味を持ちました。職場にGraSPPの修了生の先輩がいたので、それもあってGraSPPへの入学を希望しました。

—GraSPPや日本での生活はどうか？

私はエネルギー政策と日本の政策立案に関心があるのですが、GraSPPではその両方が受講できて、かつ英語で授業をしているので、知識の幅を広げるのには非常に良い環境だと思います。日本の食べ物が大好きですし、日本の生活はとても楽しいです。日本の人は礼儀正しくて優しく、英語が話せない人でも翻訳ソフトを使ってコミュニケーションを取ろうとして助けてくれるので、留学生にはとても良い国だと思います。あと、日本には四季がありますよね。私が一番好きな季節は秋です。先日、軽井沢に行ったのですがとても素敵でした。これからは北海道や栃木にも訪れてみたいです。

—GraSPP内外で積極的に活動していますね

GraSPPは様々な国や地域から学生が集まっているので、多様性について深い理解を得られ、自分を広げるとも良い環境だと感じています。今私はGraSPPでは学生自治体に所属していて、日本人と留学生の交流を広げたいと思って活動しているのですが、なかなか思うようには上手くいなくて苦労しています。

学外では東京の様々な大学に通うフィリピン人留学生で構成されている在日フィリピン留学生協会(Association of Filipino Students in Japan、以下AFSJ)に所属していて、クリスマスパーティーなど定期的にイベントを開催したり、一緒に試験勉強をしたりして、慣れない海外生活に苦労しているフィリピン学生をサポートする活動をしています。あとはASEAN Youth Networkでも活動をしています。

—GraSPP卒業後はどのような道に進まれますか？

卒業後はフィリピンに帰国して4年間は元の省庁に勤めますが、その後はまだ分かりません。ただ、将来は教壇に立って、学生たちを応援し、共に学びたいという思いがあるので、いつかアカデミックの世界に戻ってきたいですね。あとは長い時間がかかるとは思いますが、博士号も取りたいです。現在、GraSPPで3つの授業でTAをやっているんですが、それも将来、教える時の訓練になると思ってやっています。日本に来られたことで私の人生は大きく変わりました。フィリピンにだけ居続けたなら、これだけの経験をすることは難しかったと思います。なので今日本にいる間にネットワークを広げたいと思いますし、私は人のために働くことがとても楽しく、幸せに感じるので、留学生をサポートする活動は続けていきたいです。

(インタビュー・文責 編集担当)



AFSJで開催した2019クリスマスパーティーの様子。
AFSJではVice-President for Student Welfareを務める



母親の誕生日祝いの様子。フィリピンの家族と共に

第2回TCS×BESETO CAMPUS Asia Alumni Workshop開催報告

永井宏志郎 キャンパスアジアコース 2015年修了



2019年12月14日に第2回TCS×BESETO CAMPUS Asia Alumni Workshopがソウルの日中韓三国協力事務局(TCS)で開催されました。今回のワークショップには、東京大学、北京大学、ソウル国立大学の3大学の修了生と現役学生合わせて約50名が参加しました。当日は、TCSを代表して社会・文化部長の長淵憲二様よりご挨拶をいただいたのち、同窓会規約の議論、プログラム改善のためのアイデア交換、キャリアに関する修了生と現役学生のディスカッションなど多岐にわたるセッションが行われました。その後、ネットワーキ

ングレセプションを通じて、旧交を温め、また新たな出会いを楽しみました。会場には「インスタ映え」するフォトブースも設けられ、参加者は「We are not too different」という今回のコンセプトが日英中韓の4言語で書かれたブースの前で思い思いの写真を撮り、SNSにアップしました。参加者の中には、シンガポールから弾丸で参加する修了生もおり、日中韓の枠に留まらないグローバルなネットワークへの発展を期待させるワークショップとなりました。

BESETOキャンパスアジアコンソーシアムの同窓会は、公式な活動をスタートさせてから日が浅く、まだ十分な機能が果たせていません。ただ、他のキャンパスアジアコンソーシアムをリードする存在として多くの方に期待をかけていただいております。今後より活動を活発化させていきたいと考えています。今回のワークショップをきっかけに、2020年は修了生と現役学生との交流、他のキャンパスアジアコンソーシアムの修了生との交流も推進していく予定です。最後になりましたが、今回のイベントの実現に多大なるご尽力をいただいたTCSのキム・ヘミン様、GraSPP職員の那知信恵様に本稿を借りて御礼を申し上げます。



TOPICS

2019年度公共政策学教育部学位記伝達式を以下の通り、開催いたします。

開催日時： 2020年3月23日(月) 11:30 ~

開催場所： 東京大学本郷キャンパス 国際学術総合研究棟4階 SMBC Academia Hall

Webサイト：<http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/>

GraSPP
THE UNIVERSITY OF TOKYO

編集後記

先日、GraSPPのNewsletter担当になって丸2年経ったこともあり、過去の発刊物を読み返してみたのですが、これが思いがけず良い時間でした。時節毎の国内外の社会課題に教員と学生が真摯に向き合ってきた姿を記録・発信するというNewsletterの役割を再認識した次第です。まさに「初心忘るべからず」。令和2年も続けて「今のGraSPP」の姿をお届けしてまいります。(編集担当)

vol.

57

NEWS
LETTER

【編集・発行】東京大学公共政策大学院 【発行日】2020年2月19日

113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
E-mail grasppnl@pp.u-tokyo.ac.jp
<http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/>